若き光

題字：第５６代
高麗大記

令和３年２月２３日
発行：高麗神社々務所

「高麗神社と日高市」

日高市長
谷ケ崎　照雄

日高市で連想するもの…現在は巾着田の曼珠沙華が有名になりましたが、やはり、出世開運の高麗神社だと思います。毎年、高麗神社での初詣は欠かしたことがなく、年に何度も参拝させていただいております。

これまで高麗郡建郡から一三〇〇年もの長い間には、時代とともにたくさんの歴史が刻まれていることと想像いたします。高麗氏系図からも初代の高麗王若光から現在までの第六十代の文康宮司まで途切れることなく連綿と受け継がれており、高麗神社・高麗家に残る文書や市内にあるたくさんの文化財などから歴史が紐解かれていくことに浪漫を感じます。

また、文康宮司をはじめ、関係者の皆様により、「一般社団法人高麗一三〇〇」の設立から、高麗浪漫学会（現日本高麗浪漫学会）を誕生させ、平成二十八年には先代宮司の悲願であった「高麗郡建郡一三〇〇年記念事業」を成功に導かれたことに対して敬意を表します。

平成二十九年九月には、天皇皇后両陛下行幸啓の機会をいただき、高麗神社への参拝と高麗家住宅の視察の後、巾着田曼珠沙華公園をご案内させていただきましたことは、私にとってこの上なく名誉なことであり、生涯忘れることのない記憶となりました。（写真下）

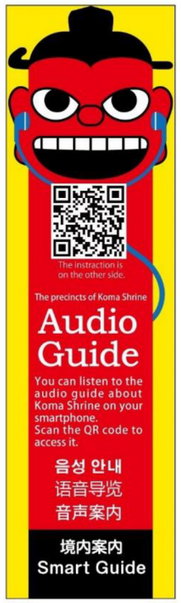
さて、本年日高市は、市制施行三十周年を迎えます。四月から「第六次日高市総合計画」をはじめとして、さまざまな計画がスタートいたします。本市の新たな将来都市像である「誰もが安心して住み続けられる　ふれあい清流文化都市　日高」の実現に向けて、日高市が一〇〇年後、二〇〇年後と着実に発展するよう、今後もスピード感を持ち、魅力あるまちづくりに「誠心誠意」取り組んでまいります。

高麗郡建郡の新たな一〇〇年に向けて活動されている高麗神社並びに高麗神社氏子会の皆様方とともに、日高市の歴史を作ってまいりたいと思います。何とぞご支援、ご協力をお願い申し上げます。

巾着田　曼珠沙華公園

◆「音声ガイド」導入のお知らせ

当社では、ご要望に応じて職員による境内案内を行っておりますが、状況により繁忙期の対応や外国の方への説明が行えない事がございます。これを補助する為、このたび音声ガイドシステムを導入いたしました。手持ちのスマートフォンを使い、ＱＲコードを読み取るだけで簡単に神社各所の説明を聞く事ができます。日本語の他、英語・韓国語・中国語も用意してありますので、ぜひご利用ください。



境内に設置の看板

音声ガイド　QR コード

職員　紹介

【氏　名】・野村　幸司（のむら　こうじ）
【生まれ年】・平成　七　年
【出身地】・東京都世田谷区南烏山
【出身校】・國學院大學　神道文化学部
【趣　味】・鉄道模型製作・路線バス乗継ぎの旅

平成三十年に高麗神社に奉職いたしまして、三年が経ちました。先輩方の背中を無我夢中で追い、日々精進しております。特に氏子の皆様には、心温かく迎え入れて頂き、行事を通じての交流も、私にとって楽しみの一つです。どの様な時にも皆様に気持ちよくお参り頂けますよう、高麗神社の一員として努めてまいります。どうぞ、宜しくお願いいたします。

お知らせ

権禰宜の倉片　彩が、このたび育児休暇を終え職場へ戻ってまいりました。

昨年十一月より復職しました。一年間真剣に子育てと向き合えたのは、今こうして温かく出迎えてくださる皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。

これからは、また一つ経験を重ねた立場で、神社へお越しになる方々に寄り添える神職でありたいと思います。同時に、毎日の社務を通して学んだ教訓や感性をもって、豊かな心を伝えられる母でありたいです。

今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。

祈願随時受付　毎日8:30～17:00　(12/31は、14:00まで)
※ご予約の必要はありません。
初宮詣・七五三・ランドセルのお祓い(3月上旬～4 月上旬)
人生儀礼各種・商売繁昌・厄除け・方位除け・車お祓い
高麗神社々務所　埼玉県日高市新堀 833　☎042-989-1403

編集後記

担当・保々

本紙編集作業の中で、ふと思った事は、先人達は「待つ」という事を時に有意義に過ごしていたということです。先日、ラジオで冒険家の野口健氏と荻田泰永氏の対談が放送されていました。両氏は、冒険中に天候で足止めとなった際、どうしているかの問いに「待つほかない」と答え、更にコロナにより冒険が出来ない中で、どうしているかの問いには「執筆や本を読み漁るなど、今出来る事をしている。受動ではなく能動的に待っている」と答えました。先人や両氏に習い、待つという時間を有効に生かし、明日の歩みに備えて行ければと思います。

氏子会　活動紹介

氏神神社は、自らが居住する地域の氏神様をお祀りする神社であり、この神社の鎮座する周辺の一定地域に居住する人々を氏子と言います。高麗神社の氏子区域は、大宮・高岡・新井・栗原南部・栗原北部・楡木・本所野口・稲荷道・藤川であり、その中から現在約２００戸が会に属し、例祭や獅子舞奉納を始め年間に行われる様々な行事への参加や運営をしながら、伝統文化護持の一端を担っています。

高麗神社　氏子会《青壮年部》

はじめまして！　氏子会青壮年部部長の太田文悟（おおた ぶんご）と前島永国（まえしま ひさくに）です。

伝説の青壮年部長 石井 直（いしいただし）さんから次期部長としてどちらか引き継ぐようにと言われ、前部長の働きぶりを知る私達は怯え上がり、終わりなき譲り合いの合戦となってしまいました。そのため、二人で協力してやっていこうという結論となり共同部長となりました。どちらも部長として活動しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。まずは、私達二人の自己紹介をいたします。

大宮組　太田文悟　生まれは遥か彼方、大阪の池田というところであります。縁あってこの地に来て十六年、氏子会青壮年部へとお誘い頂き、広くこの地域の方々と知り合えたのは本当に良かったと思っています。

左：前島 部長　　右：太田 部長

高岡組　前島永国　太田部長と同じく、日高高麗は十五年前に妻の実家があった縁から終の棲家となりました。鈴木八蔵さんの隣家と言えば、すぐに伝わると思います。

私達 青壮年部は、ＯＢ会や婦人部と協力し合い、各お祭りや盆踊り大会のお手伝い、正月の駐車場整理ご奉仕等の活動をしております。その中でも最大の使命は、例大祭での付け祭り主催です。神楽殿ステージでの演芸や花火、そして豪華賞品が当たる大抽選会を企画し、祭りまでの数日間は、外の獅子習いの音をＢＧＭに準備しております。

私達は、皆仲良く楽しく、少しのお酒とともに活動しておりますが、近年は部員が少なく大変さみしい状況ですので、氏子の皆様には、引き続きのご協力をお願いいたします。

10月19日　例大祭付祭り　大抽選大会
神楽殿上 手前の大きな背中が太田 現部長

例大祭付祭り　大抽選大会の様子
8時過ぎだが大勢が集まり賑わっている

【防ぎ（ふせぎ）について】

神社の準備表にある「魔我除神璽（まがよけしんじ）」は、防ぎと言われる災厄除け、特に疫病を防ぐ意味で行事に使用する。大宮組では、二メートル程の竹竿の上部に幣束を挿し、魔我除神璽の御札を竹にくくり付ける。これを四組作り、大宮地区へ進入する道の境界、四ヶ所に立てる。御札の中には、「猿田彦命（さるたひこのみこと）・八衢彦命（やちまたひこのみこと）・八衢姫命（やちまたひめのみこと）」の神名が記されている。三神は、道を司り、境界で災厄となる疫病の侵入を防ぐと信仰されている。

大宮地区四ヶ所
に立てる「防ぎ」

【石尊様（せきそん）について】

石尊様は、神奈川県伊勢原市の大山（おおやま）と呼ばれる標高一二四二メートルの霊山に由来し、山頂の霊石を石尊大権現（せきそんだいごんげん）と号して崇めた事によるもの。山の中腹には、大山阿夫利神社が鎮座している。「阿夫利（あふり）」とは、大山の別名である雨降り山を意味する。常に湿気が立ち込め雨を降らしている事からであり、古来より雨乞い信仰の中心地としても崇敬されてきた。

大宮組の石尊様は、高麗神社一ノ鳥居そばに立つ石尊灯籠が信仰の寄りどころとなる。行事では、石灯籠の周りに、竹としめ縄で結界を設け、台座の前に幣束を立てる。

この日より夕暮れ時から夜にかけて、組の者が順番に数十日間、灯籠に明かりを灯し、お参りする。灯す順番は家並順に木の板に記されている。古くから大宮の住人が、大山の石尊大権現を崇め、農作物や生活に必要な降雨がもたらされるよう祈るため、その信仰集団である「講」を形成し、行事を伝えてきたのであろう。

石尊灯籠の台座前には小さい幣束が差し立てられる

石尊灯籠の周りに竹としめ縄で
結界を設ける作業の様子

【結びにかえて】

令和二年は、新型コロナウイルスにより各所で行われて来た多くの行事が中止や縮小の難にあった。後世へ伝えていく上で、この記録が、少しでも行事振興の力になれば幸いである。